

2025年11月28日京都嵐山、大河内山荘散策

作：岡田弘

モウソウチク（孟宗竹）イネ科タケ亜属＊ほとんど開花しない

この節が一重

名前の由来＝中国の三国志の時代の政治家にいた孟宗に由来します、彼は親孝行して知られ、冬でもタケノコを掘り出して母親に食べさせていたと云う古事があり、この行動から「孟宗竹」となった。

日本には竹の種類が約20種類、変種を含めると50種類ある、モウソウチクは江戸時代に鹿児島に導入されたものが全国に移植された。根の成長が早く1年で5mも横に延びた記録もあるほど繁殖力が旺盛です。花はほとんど咲かないが、例外的にさくときがあるが花が咲いた竹は根まで枯れてしまい再生しないので、咲いた花の種を巻いて再生を図る。竹の成長が早いのは、各節に生長点がある、節の数だけ一晩で成長するので1m伸びた記録もある、マダケとの見分け方は、節の輪の膨らみが一重、マダケは二重の節です。



マダケ（真竹）イネ科タケ亜属＊開花時期＝120年周期と言われる

節が2重

名前の由来＝主にその成長や成り立ちに由来する、竹の「丈（たけ）」や「高（たかい）」と言う言葉が語源とされ、また、タケノコの成長の速さから「長生（たけおう）」や「高生え（たかはえ）」と呼ばれていたのが転じたという説がある。マダケは節間が長いと根元と先の太さが違わない、また、材に弾力があるので工芸品や建築材等幅広く用いられた、タケノコは苦味とアクが強いので市場にはほとんど出ていません。120年周期で花を咲かせて枯れますが、根茎は枯れないので根から再生します、花を見ることが少ないので昔の人は不吉なことが起きる前兆と。＊まさかと思いましたが**花言葉ありました**＝節度・節操のある＊竹と笹の違い、竹は筍が成長すると皮を落としてしまう、笹は何時までも薄い皮がへばりついている。



モミジ・カエデ＊は同一植物でムクロジ科カエデ属です。

世界には約150種類ほどある、日本では35種類、江戸時代から交配種による園芸種が多く作られて、今では120種類以上あると言われます。モミジとカエデは同一植物でありながらどのような違いで呼び方を変えているのでしょうか？一般的に葉の見た目で見分けている、葉の切れ込みが深く紅葉が美しい、カエデは切れ込みが浅く一般的に葉が大きい。名前の由来はそれぞれ違います。＊モミジの名前の由来＝葉が紅葉するのを表す「もみず」と言う動詞が「もみじ」に転訛した。＊カエデの名前の由来＝葉の形がカエルの手に似ている所からと言われていました（種類によりそうでもないものもあります）日本のモミジの種類は大きく分けると、イロハモミジ、ヤマモミジ、オオモミジ、の3種類だと言えます、イロハモミジ、オオモミジ、は太平洋側に多くヤマモミジは日本海側に多いとされています。次に主だったのを列举します。

①イロハモミジ



②ヤマモミジ



③オオモミジ



④フカギレオオモミジ



⑤イタヤカエデ



⑥トウカエデ



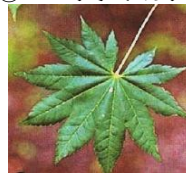
⑦サトウカエデ



⑧ハウチワカデ



⑨コハウチワカデ



⑩ヒナウチワカエデ



⑪オオイタヤメイゲツ



⑫エンコウカエデ



⑬カラコギカエデ



⑭ミネカエデ



⑮コミネカエデ



⑯アサノハカエデ



⑰ウリハダカエデ



⑱ウリカエデ



写真を掲載しましたが、特徴のある、エンコウカエデ、イタヤカエデ、等は目視で直ぐ同定できますが、ヤマモミジとオオモミジ、や、ハウチワカエデ、と、コハウチワカエデ、等一見しての判別は難しい、経験をつんで些細な特徴を